

岡本恵也先生の退職記念号の刊行にあたって

経済学部長 細 江 守 紀

岡本恵也先生は昨年 2015 年 7 月をもって本学をご退職になりました。ここに長年にわたる熊本学園大学および経済学部に対する先生のご貢献に感謝の意を表する次第です。先生の多大なご貢献に感謝して『経済学論集』の特別号を編集することになりました。ご寄稿いただきました多くの先生方には心より御礼申し上げます。

岡本先生は 1984 年熊本大学より本学（当時熊本商科大学）に金融論担当教授として赴任されました。赴任後は大学の様々な役職を歴任され、大学の発展に寄与されました。とくに、2 度の経済学部長の就任後、2010 年 8 月から 2014 年 7 月まで学長としてその大任を果たされました。学長の職にありましては、少子化の波をもろにかぶった大変困難な時期に大学改革を積極的に進められました。どんな改革をやろうとしても、どこからか非難される状況での船出であえて火中の栗を拾う心境でなかったかと推察いたします。岡本先生は覇気にみちた高い見識を持たれた方であり、乱世にふさわしい学長ではなかったかと思っています。岡本先生の大きな改革の後押しを受けて経済学部は学部改革を実行することができました。学長のリーダーシップがなければ今日の経済学部のあらたな姿はないものと思っております。その意味でも経済学部にご多大なご貢献をいただいたものと大変感謝しております。

岡本先生は私にとって福岡高校、九州大学経済学部、大学院の先輩にあたり、また、大学のときも私が深町郁也先生のゼミをとっていた関係でつながりは結構あるのですが、本学で一緒するまではそれほどおつきあいの機会はありませんでした。当時は大学紛争の渦中にあり、岡本先生が活発に議論されているお姿をノンボリの私はまぶしく眺めていた記憶がありました。また、大学院生のとき、先生が翻訳されている書物のなかの「sub-optimal」という言葉の適訳について意見を聞かれたことがあります。おそらく私が数理的な研究に進んでいることをご存じで、それで尋ねられたのだと思います。それから、30 年以上お会いすることがなかったのですが、2006 年私が本学に赴任することになりご一緒することになりました。以来、折に触れ適切なご助言などをいただき、学部運営への糧として助けていただきました。

岡本先生のご専門は金融論ですが、マルクス経済学からのアプローチをとられていて、私の方からとくにご紹介する能力を持ち合わせていませんが、先生の研究面でご高名はこの特集号において様々な分野の立派な先生方よりの多くのご寄稿論文が掲載されていることから推察

できます。今回の挨拶文を書くにあたって、季刊『経済理論』の2014年の特集号に楊枝嗣朗先生とご一緒に書かれた論文「「グローバル金融資本主義」の歴史的位相：「21世紀型世界金融恐慌論」に寄せて」を拾い読みさせていただきました。現代の経済システムの頑健性を踏まえた意義深い議論をされており、また、世界経済の見方について随所に納得させられる指摘がなされており、大変勉強させていただきました。

最近も雑誌『世界経済評論』に現代の政治や金融当局の陥っているポピュリズムについてエッセイを書かれていましたが、研ぎ澄まされた筆法はますます冴えわたっており、今後もいろんな局面でご意見を伺いたいものだと思います。ひきつづき、本大学、本学部のために、また、地域のためにご尽力をいただければ幸いです。最後になりますが、ご健康にはくれぐれもご留意されてご活躍されることを祈念いたします。